



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース No.17
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1975, 17, p. 39-43
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/65272">https://hdl.handle.net/11094/65272</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 負担金の改訂について

大阪大学大型計算機センターでは別にお知らせしたように50年4月から負担金を改訂することになりました。平たく云えば値上げになります。インフレのため研究費が苦しい時に値上げするのはまことに心苦しい次第です。御了解をいただくために、センターの実情を説明しておきたいと思います。

一言で云えば、センターもインフレに直撃されたという他ありません。昭和50年度に大阪大学大型計算機センターの運営に必要な経費は、運転時間によりますが、49年度並みに年間4000時間程度の運転をして、年間約1億1000万円程度と予想されます。(49年度は約9000万円でした)これに対し、政府から運営費として来る予算は約4000万円しかありません。この差額を負担金で賄わねばなりません。元来、政府からの運営費は、官庁の普通の勤務時間内の運転をすることを前提として算出されていました。ところが、その金額はセンター設立当時から同一で、物価の上昇が考慮に入れられていなかったため、ここ2~3年は月200時間程度の運転に対しても赤字になる額でした。昨年やっと主として電力料の値上げを考慮した補正予算がつき、50年度もその分だけ前より増したのですが、赤字であることに変わりはありません。文部省もそれは認めていますが、ある程度の受益者負担を行うべきだという考え方のようです。

50年度運営費1億1000万円の主な内容は、概算で云いますと、光熱水料(ほとんど電力料)が約2000万円(政府よりの示達予算は約1500万円)、消耗品費(主としてラインプリンター用紙。その他、磁気テープ、カード、プリンター用インクリボン等)が約2200万円(示達予算は、約1600万円)、計算機システム借料補足(システムのレンタル料として年間約1億5000万円が来ますが、それに補足して、カード穿孔機やNEACタイバーなどを借りています)が約800万円(示達予算はもちろん0)、通信運搬費(主としてカード・デック等の輸送経費)が約1000万円(示達予算は約400万円)、非常勤職員(データ・ステーションにいます)やパート・タイマーの人工費約1000万円(示達予算はもちろん0)、定期波定電圧装置や空調装置などの保守契約が約600万円(示達予算は約50万円)、ニュースや手引きなどの印刷費が約500万円(示達予算約40万円)、夜間運転の人工費が約2000万円(示達予算はもちろん0)、その他センターのこまごました費用などです。

この中で一番深刻なのは夜間運転です。御承知のように、当センターでは夜間運転をしなければ利用者のジョブを捌くことができません。夜間の運転はオペレーション会社と契約をして作業を依託しています。ところで、昨年の夏頃から、その会社が労働事情を理由に夜間の作業を引受けることが非常に困難である旨を申入れてきました。いろいろ折衝の結果、夜間運転は続けられることになりましたが、実質的には相当の値上げを認めざるを得なくなりました。このため、50年度も従来通りの方法で従来程度の夜間運転をするとすれば、前記のような金額が必要になります。これは従来に比べて大幅な支出増となるわけです。

こういう情勢に対し、センターでは夜間運転に際してできるだけ人手を必要としないでむ

ような設備と運用とを計画していますが、何時頃から、又どの程度実施できるかの見通しはまだはっきりしません。このため、50年度の夜間運転経費として一応前記の金額を予定しました。

この必要経費に対し、従来の負担金体系ですと大幅な赤字を出すことになります。もちろん、夜間運転を止めるか大幅に減らせば何とかやって行けないこともあります。現在の需要から見ればそれは非現実的なことです。これらの事情のため、止むを得ず負担金を値上げせざるを得なくなりました。御了解をいただきたいと思います。センターはできるだけ処理能力を向上し、一方では経費の節約に努めるつもりです。なお、参考までに他センターの負担金体系を表に示しました。

今年は10月頃からシステムⅢの主記憶が1MCに増強されます。これによる処理能力の増加は2割程度であろうと予想しております。この程度の能力増では焼石に水なので、センターは引き続き増強のための予算要求をして行く方針です。御協力を御願いします。

**各センター利用負担金体系** (昭和50年4月現在)

項目		北大	東北大	東大	名大	京大	阪大	九大
バ ッ チ  チ 處 理	基本経費	50円/ジョブ	100円/ジョブ	100円/ジョブ	40円/ジョブ	0	80円/ジョブ	50円/ジョブ
	演算経費	10円/秒	標準操作 4.2円/秒 特殊混合 5円/秒	7円/秒	3円/秒× (1) コア占有係数	10円/秒× (2) コア占有係数	5円/秒	10円/秒× (3) コア占有係数
入 出 力 経 費	カード入力	0	0	0	1円/20枚	0.03円/枚	0	1円/10枚
	紙データ入力	0	0	0	0	0	0	1円/4,000字
	プリンタ出力	5円/枚	5円/枚	3円/枚	3円/枚	3.5円/枚 +0.03/行	5円/枚	3円/枚 +1円/12行
	カード出力	1円/枚	1円/枚	1円/枚	1円/枚	1円/枚	1円/枚	2円/枚
利 用 者  フ ァ イ ル	1.5円/ KB・月	課題毎に 100円/月 15UODまで 1円/UOD・日 15UOD以上 4円/UOD・日 TSSの場合 30UOAを超 えた分につき 2円/UOA・日	0.005円/ KB・時	100円/月 +10円/ トランク・月	10円/ トランク・月	15UODまで 10円/UOD・月 15UOD以上 20円/UOD・月	1円/15KB・日	
						TSSの場合 40UOAを超 えた分につき 20円/UOD・月		
リモート・ バッチ処理	バッチ処理 と同じ ただし出力経 費はセンター 出力について のみ適用	バッチ処理と 同じ ただし入出力 は会話型コマ ンドで行われ るため、会話 型処理の経費 が加算される	バッチ処理と 同じ ただし出力経 費はセンター 出力について のみ適用	バッチ処理と 同じ ただし演算経 費は1.5倍 出力経費はセ ンター出力に ついてのみ適 用	バッチ処理と 同じ ただし出力経 費は端末出力 について0.03 円/行 センター出力 の場合はバッ チと同じ	バッチ処理と 同じ ただし出力経 費は端末出力 は2円/枚 センター出力 の場合はバッ チと同じ	基本経費 20円/ジョブ 端末出力は 1円/24行 (センター内 端末の場合は 1円/5行) 他はバッチ処 理と同じ	
会話型処理	リモート・バ ッチと同じ その他に端末 接続時間1分 につき2円	課題毎に 100円/月 スタート及び ランコマンド 毎に10円+1 円/秒 他はバッチと 同じ。ただし 出力経費はセ ンター出力に ついてのみ適 用 その他に端末 保有負担経費 500bpsまでの ものは2,000 円/月 500bps以上の ものは5,000 円/月	リモート・バ ッチと同じ その他に接続 時間1分につ き3円	バッチ処理と 同じ ただし演算経 費は2倍	リモート・バ ッチと同じ ただし演算経 費は1.5倍 端末出力は 0.2円/行  (1) コア占有係数 45kwまで 0.8 45~90kw 1.0 90kw以上 1.1	20円/会話+ 1円/秒  (2) コア占有係数 20kwまで 0.9 20~40kw 1.0 40~60kw 1.1 60~80kw 1.2 80~100kw 1.4 100kw以上 1.8	バッチ処理と 同じ ただし演算経 費は2倍 その他に端末 思考時間30秒 につき1円  (3) コア占有係数 0.4+0.01 ×コア占有量 /kw	

## L P用紙の変更について

このことについては、速報No.29で、利用者等に差支えなければL P用紙の灰色線を青色線に変更する予定である旨を、お知らせしましたが、その後、会計的に再検討した結果、変更は当分の間見合わすことになりましたので御了承願います。

## センターからのおねがい

センターには持り帰ってくれない、リストの山ができていることは先号で申し上げたとおりであります。ところがその後もリストの山は増え続けセンターでは、いよいよ困惑しております。入力したデータには責任をもって、リストを受取っていただきたく重ねて、お願い申し上げる仕事です。

